

3学期に学力向上に向けて何に取り組めますか？

いよいよ3学期がスタートしました。本通信では、児童生徒のつまずき解消に当たり、解消すべき課題を重点化した取組を推進いただけるよう、県事業指定校等から提供いただいた学力定着状況確認テスト結果の傾向をまとめ、学習状況調査結果から見えることと、つまずき解消のヒントを併せてお伝えします。

3学期の取組を推進するために

つまずき解消に向けた具体的な取組を進めるうえで、年度当初の学力定着状況と比較し、成果が出ている取組とそうでない取組を分析し、更なる改善を考えていくことが必要です。また、組織的な取組とするために、管理職等との連携を図りながら、解消すべき課題や取組の方向性及び必要性を教職員に発信していく必要があります。さらに、実行に当たっては、お互いの意思疎通を図りながら、チームや個人の役割と責任を明確にすることが大事になってきます。

学力定着状況確認テスト調査結果から

県全体（岡山市を除く。）の小学校の約1割、中学校は約6割の児童生徒数に当たる自校採点結果を県事業指定校等から提供いただきました。学力定着状況確認テストの傾向を示しますので、2ページ目以降と合わせて自校の取組を推進する際の参考にしていただければと思います。

小学校国語における傾向

○目標値を上回った学校が多い設問

ローマ字を書く設問、主語を問う設問、
広告の編集の特徴を問う設問

▲目標値を下回った学校が多い設問

1文を2文に分ける設問、記述の仕方の工夫を捉える設問、文章の要旨をまとめて書く設問

小学校算数における傾向

○目標値を上回った学校が多い設問

加法や減法についての計算問題、
分度器の目盛りを読み角の大きさを求める設問

▲目標値を下回った学校が多い設問

除法の計算問題（特に小数）、
分数を用いた計算問題、わけを書く設問

中学校国語における傾向

○目標値を上回った学校が多い設問

話合いの話題や方向を捉える設問

▲目標値を下回った学校が多い設問

根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く設問、
1文を2文に分ける設問

中学校数学における傾向

○目標値を上回った学校が多い設問

加法や減法についての計算問題、
整数倍を問う設問

▲目標値を下回った学校が多い設問

分数を用いた計算問題、図形に関する設問、
小数倍の場面を数直線に位置付けたり求めたりする設問

学習状況調査結果から

家庭学習について

県全体では、秋の学習状況調査結果から、平日1日当たりの学習時間が1時間以上と回答した中学2年生の割合が、4月の県の学習状況調査結果と比較して減少傾向にありました。これまで、各学校において、家庭との連携の下、「自ら学ぶ力の育成」「学習内容の確実な定着」を目指した家庭学習の充実に取り組んできたと思いますが、改善に結び付いていないと言えます。今一度、授業と連動した課題の在り方を各校で確認し、児童生徒のためのより良い学習習慣の定着に向けて、更なる改善を図っていきましょう。

課題解決に向けたアイデア例（小学校算数5年）

小学校算数においては、小数の除法が目標値を最も大きく下回るとともに、第4学年の「整数の除法の計算 204÷4」や第6学年の「分数の除法の計算 4/5÷8」も目標値を下回っています。これらのつまずきを解消するには、計算の仕方や習熟に向けた指導を行うことに加え、除法の意味についての理解を深めさせ、計算の見通しや振り返りをさせたりすることが大切です。今回は、平成28年度全国学力・学習状況調査報告書に基づき、計算の結果を見積もったり、振り返って確かめる際の指導例をお伝えします。

問題番号	指導のねらい(身に付けさせたい力)	結果提供校の平均正答率	実施時の全国平均正答率
1(3)	小数の除法の計算をすることができる。(18÷0.9)	60.2	77.7

【実施時の典型的誤答】 $18 \div 0.9 = 2$ (反応率(全国) 12.4%)

平成28年度全国学力・学習状況調査報告書(P37)によると、誤答は、「2」や「0.2」であり、除法では商が被除数よりも小さくなると判断していると考えられます。

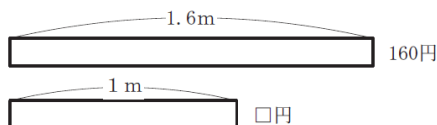
【紹介する指導アイデア例】「見積もり」と「確かめ」の習慣を付ける。

- ① 1m当たりの値段を求める問題を用いて、商の大きさを見積もる活動を設ける。
- ② 計算の結果を振り返って、確かめる場を設ける。

アプローチ1

計算の結果を適切に見積もることができるようにする。

問題 1.6mで160円のリボンがあります。このリボン1mの値段は何円ですか。

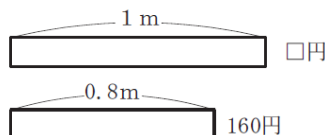


このリボン1mの値段は、160円より安いですか？高いですか？

1mは1.6mより短いので、160円より安くなります。



問題 0.8mで160円のリボンがあります。このリボン1mの値段は何円ですか。



このリボン1mの値段は、160円より安いですか？高いですか？

1mは0.8mより長いので、160円より高くなります。



アプローチ2

計算の結果を振り返って確かめる習慣を身に付けることができるようにする。

問題 0.8mで160円のリボンがあります。このリボン1mの値段は何円ですか。

$160 \div 0.8 = 200$ です。

計算の結果が正しいか、振り返って確かめてみましょう。

$0.8 \times 200 = 160$ となるので、正しいと言えます。



被乗数を商で割って除数になるか確かめることを確認したり、プリント等に計算の振り返りを行う枠を作ったりするなどの工夫も考えられます。

先生方は、担当する子供たちがつまずきを解消できた理由や、今でもつまずきがみられる領域やその傾向について同僚や保護者の方に説明したり、互いの好事例を参考にし合ったりすることができていますか。子供たちが、学習内容を身に付けていくための最大の支えは、先生方の指導です。「わかった」「できた」という子供たちの笑顔に向け、正しい現状把握に基づいた指導を推進しましょう。



課題解決に向けたアイデア例（中学校国語2年）

中学校国語においては、本県の経年的課題である記述式の問題に課題がありました。記述式の問題を解くには、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして、自分の考えをまとめることが必要です。今回は、大問4三について平成28年度全国学力・学習状況調査中学校の結果を踏まえた授業アイデア例を基に、指導例をお伝えします。

問題番号	指導のねらい(身に付けさせたい力)	結果提供校の平均正答率	実施時の全国平均正答率
4三	ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く	55.6	68.4

平成28年度全国学力・学習状況調査報告書（P68）によると、典型的な誤答は、ちらしの表現の工夫を捉えているが、その効果について具体的に書くことができていないことです。

【紹介する授業アイデア例】「係の活動への協力を呼びかけるちらしを作る」
 →表現の工夫について、読み手と書き手のそれぞれの立場で検討することを通して、文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめることができるようにすることをねらいとする。
 ねらいを達成するために、構成や展開、表現の仕方について分析だけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりする授業を展開する。

ステップ1 収集したちらしの表現の工夫とその効果について考える。



「工夫」や「効果」という言葉を用いながら交流しましょう。提示された表現の工夫について、別の効果が考えられないかについても意見を述べ合いましょう。

スーパーのちらしには、実際の商品の写真を用いているという工夫があったよ。これは、どのような商品なのかが一目で分かるという効果があるね。



観光案内のちらしにも現地の写真が用いられているけれど、これには文章だけでは分かりにくい内容が理解しやすくなるという効果があると思うな。

写真を用いると、多くの人の興味を引く効果があるね。

ステップ2 下書きを作成し、互いのちらしの表現の工夫とその効果についてグループで交流する。



「工夫」や「効果」という言葉を用いながら、交流しましょう。期待する効果を生むために、別の工夫が考えられないかについても意見を述べ合いましょう。



私が作ったちらしの工夫は、「花壇に花を植えます」という説明を始めに書いたことです。こうすることで、目立つという効果や多くの人の興味を引くという効果があると思います。



ステップ3 ステップ2の活動を参考にして、ちらしを完成させる。

参考となる授業アイデア例は、県教委義務教育課のHPでも御覧いただけます。
<http://www.pref.okayama.jp/page/631592.html>

さらに、他の活動と関連させて・・・

学校生活の中で、生徒が既に作っているちらしやパンフレットなどを用いて学習することも考えられます。また、国語科で学習したことを活用しながら、新入生向けの部活動紹介や委員会活動等のポスターやチラシ作りを行うことも効果的です。国語の授業で学んだ知識及び技能を、「生きて働く力」とするために、他教科等との関連も考え、取組を推進いきましょう。

